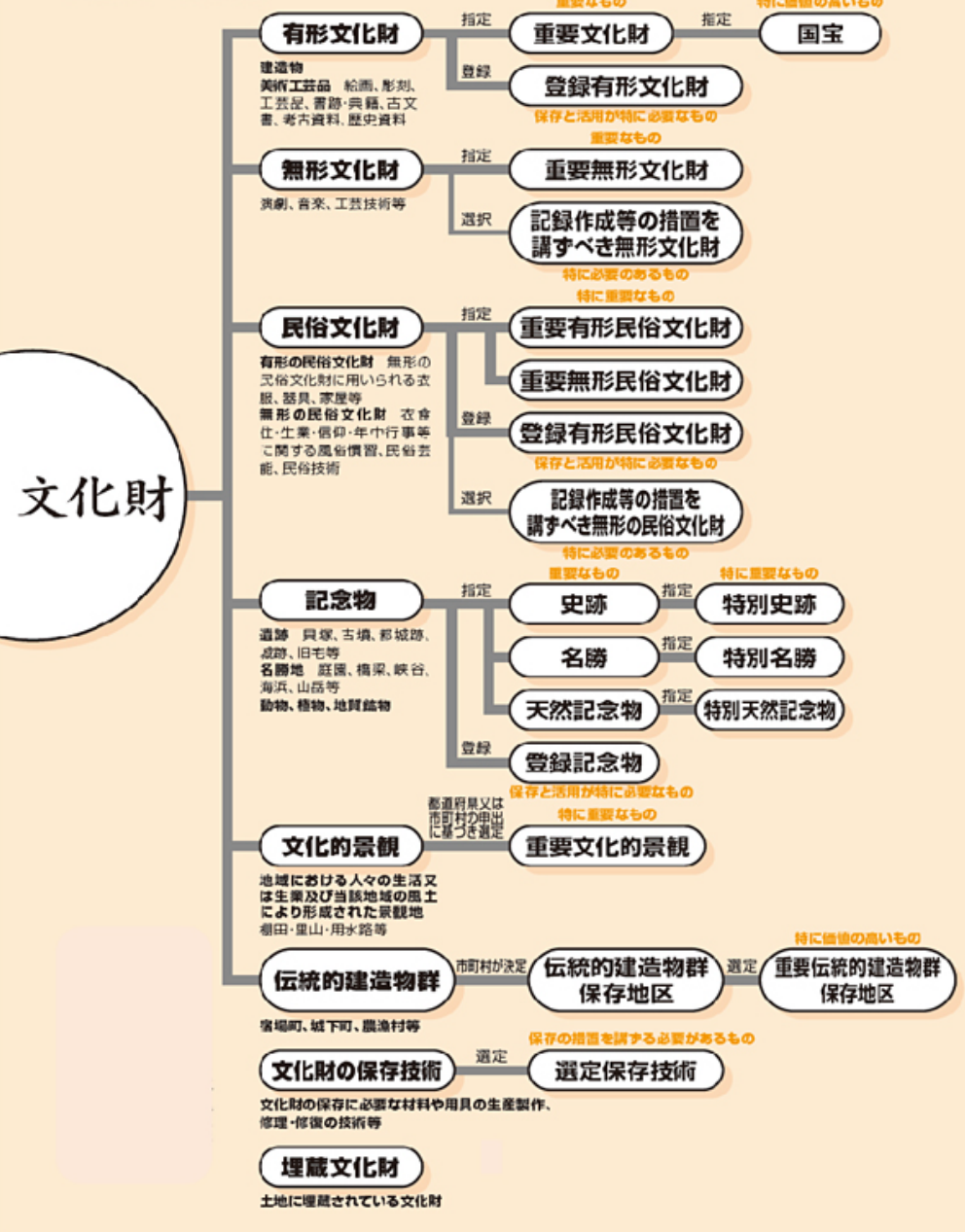


近未来の世界遺産を目指す
江戸城・城下町ルネッサンス

文化財の体系図



*「歴史文化資源」の
当会の定義

江戸東京の歴史性を示す歴史文化遺産は、指定文化財のほか東京の歴史や文化を示す未指定の有形無形の様々な遺産を含めたものであり、これらは、地域の人々が、大切にして保全されてきたものも含まれます。

これらの歴史文化遺産を「資源」として保存と活用し、次世代に、未来に継承することが肝要であると考えます。

左記の文化財体系図は、日本の歴史や文化・芸術の理解に不可欠であり、将来の文化的向上の発展の基礎をなすものです。
(文化庁資料より掲載)

2021年12月23日
第12号

ご案内
第12号本誌
・新春のお慶びを申し上げます。
・調査研究委員会報告書の策定及び提言書「VISION2032」策定を経て提言活動へ
・江戸東京歴史文化ルネッサンス基本計画書策定委員会「調査・研究委員会答申・まとめ」(概要)

新春のお慶びを申し上げます。

皆様の本年のご健勝を心より祈念申し上げます。
昨年は先行き不安のコロナ禍の最中、皆様には会員資格のご継続を戴き誠に有難うございます。

さて、12月1日(水)晴天の日、愈々、提言活動をスタート致しました。
まずは、特別史跡江戸城跡を背景に、千代田区長樋口高顕様を表敬訪問致しました。
提言書「VISION2032」をベースに有意義な意見交換を行いました。
引き続き、自治体や行政、関係者・関係機関等に対して提言活動を進めて参ります。

2017年財団設立から提言書作成に至るまでの道のりは、決して平坦ではなく地道で弛まぬ活動の連続でありました。この間、多くの皆さまのご指導・ご支援に心より感謝し篤く御礼申し上げます。

2017年10月江戸東京歴史文化ルネッサンスビジョン5カ年基本計画を発表
2018年6月調査研究準備会並びに江戸東京の歴史文化資源の調査活動を開始(2020年まで)、
2020年3月調査研究委員を設置、2020年10月シンポジウム(ユネスコ諮問機関日本イコモス国内委員会と共催)
2021年調査研究委員会の答申を受け8月調査研究委員会報告書を作成、12月提言書策定に至る

2022年(令和4年)1月好日
理事長 小竹直隆



左から齋藤副理事長 樋口千代田区長 小竹理事長 細内理事 内田専務理

事務局からのご案内とお問い合わせ先

- ・ 会員、市民のみなさまからのご意見を、今後ともお寄せ下さい！お待ちしております。
- ・ ご住所、メールアドレス等変更の際は、事務局までお知らせ下さい。

【編集後記】
今号は、テキスト中心、濃—い内容でお届けいたします。(H)
東京の固有の個性とは何か？新たな活動「提言活動」の始まりです。これまで、会員の皆様のご支援に力を戴き、心苦しい時は、特に、御世話になった人々のお顔が蘇り勇気を戴き、感謝を胸に前に進むことができました。(U)
いよいよ提言活動に入りました。振り返り、テーマを積み重ねてきた人々と手を繋ぎ、歩いてきた道のりを想う時、感謝、感慨は、ひとしおでございます。(O)

一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス
〒102-0075 東京都千代田区三番町1-16 Eメール: zaidanedojo@gmail.com
ホームページ <https://zaidan-edojo.or.jp/> FAX : 03-3977-3510
※現在、新型コロナウイルス対策のため、テレワークを中心に活動いたしております。ご利用の際はEメールもしくは郵便にてご連絡頂ければ幸いです。

提言活動スタート

これまでの活動を踏まえ & 調査研究委員会まとめ

旧江戸城及びその城下町の歴史的文化遺産の価値を活かしたまちづくりについて調査研究し、その成果や今日的意義を普及・啓発する活動を推進しています。この度の調査研究委員会の答申を踏まえて VISION を策定し、江戸東京の文化・芸術の振興並びに歴史文化資源を活かした持続可能な観光まちづくりの形成・発展に寄与することを目的として「提言」を行うものです。

調査研究委員会報告書の策定及び

提言書「VISION 2032」策定を経て提言活動へ

提言書

VISION 2032

近未来の世界遺産をめざし

—江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京の歴史文化資源を活かす—

—持続可能な観光まちづくりを推進—

提言先

東京都知事 千代田区長 文京区長 台東区長 新宿区長 中央区長 港区長
墨田区長 江東区長
文化庁長官 観光庁長官 文部科学省大臣 国土交通省大臣
農林水産大臣 環境省大臣 等、関係者及び関係機関

主な提言内容（詳細は「提言書」に記載）

1. 江戸東京の歴史文化まちづくり中長期計画の策定：
2. プラットフォーム・江戸東京歴史文化資源等を活かした観光まちづくりへの参加：
3. SDGs 持続可能な観光地域づくり法人の登録DMOを目指す組織の設置：
(DMO：観光地域づくり法人 Destination Management Marketing Organization)
4. 以上の課題と連動する江戸城全体整備構想の策定のテーマは、一旦留保するものの、目指す方針は堅持し、人・モノ・資金等の相応の体制が整い次第、策定活動を開始する。多くの関係者・関係機関による「協力関係づくり」を提言する。
5. 縦ワリ行政のしくみや文化の阻害要因、規制や相続税等の税制の改革

上記の1・2・3・4・5の課題に関係する市民・産学官民に対し、提言活動を進めると共に、当会は主体的に関係者・関係機関と共に話し合う機会や場を設定し検討を行う等の取り組みを推進する。

江戸東京歴史文化ルネッサンス基本計画書策定委員会

「調査・研究委員会答申・まとめ」から(概要)

1. 近年の再開発等で歴史文化遺産が失われ、都心の歴史性が薄れていくという危機感のなか、歴史文化遺産の保存状況を把握し、そのうえでその保存・活用あるいは再生のイメージを作る必要がある。一方、過去から学び、現代の問題を再発見する、民衆の視点やジェンダー、経済格差、社会の矛盾を示す痕跡も重要である。
2. 今回の調査範囲は、旧江戸城や周辺の関連する文化財等を中心に位置づけ、江戸時代から昭和初期までの時期、江戸府内にあたる現在の8区（千代田・中央・港・新宿・文京・台東・墨田・江東区）の地域を対象とした。まずは今回の調査成果に基づき、600余の歴史文化遺産を総合的に把握した。今後は地形、水域、自然条件等東京が誇るべき自然と人間が共生する秘められた水都としての可能性を検討する必要がある。
3. 江戸・東京の歴史性を示す歴史文化遺産は、指定文化財のほか東京の歴史・文化を示す未指定の有形無形の様々な遺産を含めたものである。これらは地域の人々が大切に保全維持されてきたものも、今後は、調査すべきである。
4. 歴史文化遺産を「資源」として都市の計画や経営、さらに地域のストーリー化を考え観光にどう活かしていくかが、今後の課題である。祭りや年中行事、民俗芸能、伝統工芸等の多様な文化財等により多様な主体の関与を確保し、総合的な歴史文化マスタープラン作成を視野に社会的関心の醸成を図る必要がある。
5. プラットフォームとは、江戸東京の歴史文化資源を一元的に把握するために情報提示やそれに関わる住民・市民、産学官民の活動情報等の情報共有の場を設け、歴史文化マスタープラン作成の基礎とし、地域の歴史文化に触れる環境づくりを提案する。また、多様な主体との協働により、個々の課題を政策や制度等の課題解決に向けて検討を行う。
6. 皇居東御苑や周辺地域など、歴史文化遺産が集積する地区として必ずしも、認知されておらず情報発信・説明施設・ガイド育成)を検討しつつ地域にメリットのあるフレームとエリアマネジメントを推進する観光体制の構築も望まれる。

* 今回の調査・研究委員会は、江戸東京の文化芸術の振興並びに歴史文化資源を活かした観光まちづくりに寄与するための第一歩である。行政にはできない大胆な質の高い提言ができれば良いと考える。

以上